



日々を丁寧に暮らしている浪瀬さん夫婦

## 待ち遠しい春の チューリップ畑

町の北側にある「JAかみましき益城西瓜選果場」前の農免道路沿いの一角には、4月ともなると色鮮やかなチューリップ畑が出現します。通りすがりの人たちが、その花々の美しさに車を止めて眺める姿も多く見られます。

チューリップ畑の世話をしているのは、下小谷に住む浪瀬孜さんとツヤ子さん夫婦。浪瀬さんは「熊本地震後、『被災地に花を咲かせよう』というプロジェクトが始まり、当時区長をしていた私に役場から話が持ちかけられました」と振り返ります。そこで浪瀬さんは、農免道路沿いにある自分の畑を提供することにしました。当初は多くのボランティアの協力で数万株



農免道路沿いの畑にチューリップの花が咲くのは4月頃から(写真=浪瀬さん提供)



妻のツヤさんが大切に育てている多肉植物

のチューリップが植えられました。プロジェクト終了後も浪瀬さん夫婦は「たくさんの人たちが楽しみに待っておられるから」と規模を縮小しながらも、毎年12月に球根の植え付けをしています。

浪瀬さんは農業の傍ら、県道熊本高森線沿いの津森小の近くで長年ラーメン店を営んでいました。引退後の今は、家庭菜園に汗を流したり、春はタケノコ、秋はクリ拾いと「なんやかんやと、忙しかです」と顔をほころばせます。妻のツヤ子さんの趣味は花づくり。浪瀬家の玄関前には色とりどりの

多肉植物が育てられており、訪れる人の目を楽しませています。

## 依頼者の思いをくんで、 布小物を製作

上小谷で布小物作りを手掛け「きんちやくこうむてん」を主宰する富永安喜子さんに会いしました。自宅敷地内のアトリエで富永さんは、ミシンに向かって手を動かしていました。

幼い頃から縫い物が好きだったという富永さんは、「お人形の洋服を作るためにカーテンをこっそり切り取ったり、座布団の綿をひっこ抜いてぬいぐみをこしらえた



一緒に嫁入りした工業用ミシンを「相棒」と富永さん



ペットボトルと携帯電話が収まる富永さんのポーチ

り、親からあきれられてました」と懐かしみます。



手作りの洋服を着て笑顔を向ける富永さん

コロナ禍の最中は地域の人たちと協力し合い、近所の各家に布製のマスクを作って配ったそうです。「お客様から『思い入れのあるバッグを仕立て直して欲しい』とか『思い出深い帯をバッグにしたい』というオーダーもあります。いろいろな方の思いをくみ取りながら、面倒な仕立てもお受けしています」と話す富永さんの、たまの息抜きはドライブだとか。「といっても私、すごい方向音痴なんです。よく道に迷いますが、何とか無事に帰り着いてます」とケラケラと笑いました。

## 点訳と俳句 上田春日の世界

「点訳ボランティア」という活動をご存じでしょうか。目の不自由な人たちのために、一般の書籍を